

午後2時20分再開

○議長（浅尾静二君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、10番中島秀樹議員の質問を許可します。10番中島秀樹議員。

（10番中島秀樹君登壇）

○10番（中島秀樹君） ただいま質問の許可を得ました10番議員の中島秀樹です。

最近、経済紙を読んでおられますと、企業につきましてよく出てくる言葉の中に説明責任という言葉がございます。そして、最近新たに出てきた言葉に履行責任という言葉がございます。この履行というのは債務不履行とかの履行ですね。実行するという言葉なんです。これは正しく適切な事務をやる責任があるんだという意味だそうなんですけれども、この考え方というのは、これから行政にも多分及んでくるのではないかなというふうに思っております。私も議員として正しい履行責任を果たしたいというふうに思っております。

続きは質問席から質問させていただきます。

（10番中島秀樹君降壇）

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） では通告に従い質問させていただきます。

60分のうち財政については約7割ぐらいで、筑後川水系ダム群連携事業に対する市の考え方については3割ぐらいのペースでやりたいというふうに思ってます。時間どおりいかどうかわかりませんが、そのつもりでおります。

まず冒頭に、雑談じゃないんですけど、世界の200国以上の国で翻訳されまして、販売数1億5,000万部超の「星の王子さま」という本がありますけど、これを書いた作者って、誰か御存じでしょうか。博学の総務部長、御存じでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） フランスの作家でアン何とかだと思えます。失礼しました。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） ニアピンです。フランスのサン＝テグジュペリという作家なんですけれども、「星の王子さま」というのはベストセラーで、読まれた方も多と思います。きょうの質問の中で、サン＝テグジュペリの言葉に出会いましたので、その言葉が今回の質問の背景でございます。

「地球は先祖から受け継いでいるのではない、子どもたちから借りたものだ。」もう一度読みます。「地球は先祖から受け継いでいるのではない、子どもたちから借りたものだ。」私はいいい言葉だなと思ひまして、私の隣にも小さな2歳ぐらいの赤ちゃんがいるんですけど、隣の子どもさんなんですけど、見てると、やはり私は議員でもありますし、子どもたちのために、いい朝倉市を残していかないといけない。

私はこの子たちから、朝倉市を、今、ただ借りてるだけであって、受け継いでるわけじゃない。受け継いだからといって、好き勝手していいというもんじゃないと。先ほど言い

ました履行責任ではないですけれども、正しいことをやっていって、きちっとした形でやっていけないといけないというふうに思っております。

そういった中できょうは財政のことを質問に上げさせていただきますので、まず財政と言いましたらば、一般論のことを話しても仕方がありませんので、先日議会のほうにもいただきました財政見通しで、10年間のですね、これをベースにお話をさせていただくのが、一番議論になりやすいかなというふうに思っておりますので、それを題材に話をさせていただきます。

まず、今、日本は人口減少という病にかかっております。財政はよい方向に向かうはずだという見通しが、私は立たない時代になってるのではないかなと思っております。そういった中で、前回の一般質問でも言いましたけど、朝倉市の財政としては赤字の基調が出ている。

そういった中で、私は財政が、今後、わかりやすく言うためには10年でもいいです。よい方向に向かっていく見通しが本当にあるのだろうか。人口がふえるとか高度経済成長とか、そういった税収が上がっていくという時代は終わってまして、前提を変えないといけないんじゃないかなというふうに思っております。財政はよい方向に向かっていく見通しはあるのでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（浅尾静二君） 副市長。

○副市長（堀内善文君） 以前の右肩上がりの社会と今の状況というのは非常に違うという形は、御存じのとおりでございます。人口は減ります。ですので、どうしても経済活動も減っていくということは予想されておりますので、国全体から見た場合でいえば、どうしても縮小の傾向になるんじゃないかなというふうに思っております。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） そうしますと縮小の傾向にあるということであれば、今までの人口をふやすということは、朝倉市としても、これはやっていけないといけませんし、努力をしていけないといけないと思うんですが、そういった中で、私はこの前の財政見通しなんかも見まして、財政の持続性、そういった分が厳しいんじゃないかと。

それは先ほど言いましたように、人口減少という病にかかっておりまして、税収は減っていく。人口が減ってきますので、お金を入れてくれる方が減っていく。そして、高齢化という問題がありまして、社会保障費あたりがふえていく。

そうった中で、入りが減って、払いが多くなるわけですから、財政の持続性というのは、私は心配があるのではないかなというふうに思っております。それにつきましては、いかがお考えでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 副市長。

○副市長（堀内善文君） 確かに人が減ってきまして、税収等が落ちていきます。財政の問題を考える場合には、歳入歳出合わせて考えなければならないんですけど、単純に人が

減ったから税収が減る。それは当然のことでございますが、地方財政全体で見ると場合には、国の地方財政制度を頭の中に入れておく必要がございます。

特に地方交付税制度という厄介なものがございまして、地方の税収がふえたら、その分は75%、基準財政収入額にカウントされまして、地方交付税が結果的にカット、言葉は悪いですけど、カットされる。1億円の税収があったとしても、7,500万円は交付税が減って、総額的な一般財源は2,500万円しか自由に使えるお金はないという形にございます。

ですから、一朝倉市だけの財政を見るのではなくて、国全体の税収がどうなっていくのかということを見ておかないと、各団体の財政を見通すには、なかなか難しいものがあるうと思っております。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 私は心配性なもんですから、確かに国のことも考えてやらないといけないと思うんですが、今、私が朝倉市の構図を申し上げました。人口減少という病、これについては国も余り変わらないのかなと。そういった意味では非常に出口が見えないといえますか、万策尽きた感があるのかなというふうに思っております。

しかし、それでも私は先ほど申し上げましたように、次代の子どもたちのために、立派な朝倉市を残していけないといけないという責任感だけはございます。知恵を絞って何とかやっついていけないといけないというふうに思っております。

そういった中で、例えば今、国の借金が1,000兆円以上あるとか、1人当たり800万円以上、借金があるとか、これはどうしようもない金額で、天文学的な数字でぴんどこないんですけども、でも、それに私たちは余りにもなれてしまって、感覚が麻痺してるんじゃないかなというふうに思っております。

朝倉市の財政が厳しいということは、朝倉市という社会ですね。私たちが住んでいるその社会が継続していかないということ、持続できないということではないかなというふうに思っております。

朝倉市の財政が厳しければ、中には福岡市のようにいい財政もあると思うんです。いい市町村とかもあると思うんですが、財政が厳しかったり、それとか展望が開けなければ、市民のほうから朝倉市に住まないとか、そういう選択をされて、市民からの制裁と言ったら言葉が強いですけれども、そういった選択をされて、朝倉市が危機に陥るような、そういった状況になるのではないかなというふうに思っております。

そういった意味で、今度は朝倉市の継続性というのが、私は財政がしっかりしていないと心配になるのではないかなというふうに考えておりますが、その点についてはいかがでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 副市長。

○副市長（堀内善文君） 過去の、朝倉市になりまして、平成18年から今までの決算等をずっと見てきますと、合併前はどうしてもいろんな人件費とか多くなっておりました。そ

れで、平成18年、17年度末に合併いたしましたけど、18年、19年度の決算を見ますと、どうしても収入が足りないものですから、財政調整基金に頼ってきた状況がございました。それが18、19、財政調整基金の繰り入れを18年は3億円、それから19年が1億円、入れてきております。

それ以降は、平成20年、21年は、当初予算を組むときは、予算計上のときには、当初予算のときには、財政調整基金を計上させて、収支を取り繕っておりますが、結果的には歳入の繰り入れはしてないということで、それ以降はこういう赤字補てんのための財源補てんはしておりません。途中で国民健康保険特別会計の赤字で2億円繰り入れたとか、荏原のいろんな補助金の返還等で、特別な事情はございましたが、赤字補てんとしてはやっておりません。

それで、そういう形で見ますと、合併後10年の今までの朝倉市を見ますと、非常にいい状態に今なってきてると。ただ、これは現在の状態が、先ほども出ました地方交付税の制度の一つでもあります。今、合併の方式といいまして、算定がえと一本算定と2つございます。その中の算定がえという、旧市町村の算定方法で今やっております。それは平成27年までが最終でございましたので、そこまでは非常に、非常にといたしますか、状況はよかったということでございまして、28年以降は今から苦しくなると。

ただ苦しくなる程度も、以前は国のほうは10年間で0.1、0.3というふうな形で減額していくわけですが、一本算定と算定がえの差が約14億円程度ございました。そのあたりを国が制度を改めまして、市町村が広域になることに伴いまして、いろんな経費を見ていただくこととなりますので、その差は約4億円程度、14億円ほどの差があったものは、約4億円程度の差がついたという形で、そうなりますと非常に、10億円程度差はございますから、明るさは出てきたわけでございます。

そういう形で状況的には、合併当時に比べますと平成27年まで、10年間かけますと、大体状況はよくなってきたと。今後は合併算定がえの影響と一本算定の影響で若干減っていくと。そのあたりを注意深く見ていく必要はあろうと思ってるところでございます。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 財政は、ここ10年間はいい状態になってきて、これからは苦しくなることも考えられるので、注意深く見ていこうということでございます。

そういった中で、私はこういった話というのは市民の皆様も余り知らないと思いますし、そういった意味では、先ほどいただきました、今後10年の見通しとか、あの資料というのは、確かに議員がいただいた第一級の重要資料なのかもしれませんが、そういったのを公開するというのも、一つの手ではないかなというふうに思ってます。

といたしますのが、財政リテラシーといいまして、それを理解して判断をしていただくとか、それとか情報を市民も持ってるし、行政も持ってる、情報の非対称性と言うんですけども、例えば車とかいったら、車のことは非常に売り主は詳しいけど、買い主は全然知ら

なくて、高いお金で買ってしまふとかいうような、そういった情報の非対称性が起きないように、情報を公開して、やるというのも、私は一つのやり方ではないかなというふうに思っております。

ただし、これは非常に冒険だとは思いますが、でも朝倉市の財政ですし、ある意味、議員に公開したということは、市民にも公開してるのと同じことですから、それはできるのではないかなと思っておりますが、その点のお考えはいかがでしょう。

○議長（浅尾静二君） 副市長。

○副市長（堀内善文君） 資料として出すことは可能でございますが、危険なのはその数字を説明もなく出して、数字が歳入と歳出を比較したら、これだけ財源が足りませんという形をつくった表でございますので、単純にそれを出すためには、非常に私どもは抵抗があるわけございまして、出す以上はそれなりの説明をした上で理解してもらうという作業がどうしても要ると。そういうことがなく、ただこの数字だけをぽんと出すというのは、これは危険じゃないかなというふうに思っております。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 数字だけをぽんと出すと、非常に危険であると、数字がひとり歩きするということは、私もそれはよくわかります。

そういった中で、7番の質問にも書いてるんですけども、財政というのは、私も銀行におりまして、複式簿記とか財務諸表は割かし見てきたほうなんですけど、物すごくわかりづらいといいますか、難しくて奥の深い世界だと思っております。ある意味、プロフェッショナルの世界なかなというふうに思ってるんですが、ただ議員をしながら漠然と思っておりますのが、副市長も財政畑を長くされてきて、それなりの矜持を持って、プライドを持って業務に当たって、真面目に当たってこられたと思うんですが、私は財政というのは少数精鋭主義ではなくて、ある程度公開をして、みんなで考えてやっていく、オープンソースのそういったやり方もいいんじゃないかなと。

それはもちろん素人が要らんことを言うかもしれないけれども、世の中の流れってオープンソースでいいものが生まれてくるっていう考え方はいろいろありますよね、例としまして。いろんなもの、世間にさらすことによっていいものが生まれてくると。そういうことも、私は一つの考え方として、あるんじゃないかなというふうに思っております。

それについては、オープンソースといいますか、それと7番の質問なんですが、民間の、朝倉市の財政を何とかしたいというような使命感を持った人たちなんかを集めて、そしてそういう諮問会議ではないですが、そういった会議を持って、財政課だけの本当に少数の方だけでやるのではなくて、そういった民間識者も入れて財政、行政の改革や効率化なんかを議論するというのも、私はありじゃないかなと思っておりますが、この点はいかがでしょう。

○議長（浅尾静二君） 副市長。

○副市長（堀内善文君） 言われるのも一つの考え方かもしれません。私たちとしては、今、年に1回は10年の見通しというのは、2月ごろに議会の皆様にお示ししております。議会の皆様も一つの専門的な知識をお持ちだと思いますので、そこが市民のかわりといえますか、有識者のかわりの一つだろうというふうに思っております、そこで十分審議していただければ、一定の効果は上がるんじゃないかなと思うしております。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 議会としての責任、チェック機能としての責任をより果たしていくべき、努力すべきと、それは私も当然のことだと思っております。

ですけれども、同じことを繰り返して申しわけありません。今はやりの民間活力とか、そういったのもありじゃないかなというふうに思っておりますが、民間にはそういった財政の詳しい方というのはいらっしゃらないですかね。同じ質問で申しわけないですが、もちろん議員も議会としてもやっています。しかし、それについてどんなふうでしょうか。もう一度、済みません、御答弁ください。

○議長（浅尾静二君） 副市長。

○副市長（堀内善文君） 民間の方でそういう方がいないと、全然否定してることを申し上げたわけではございません。そういうことをまだ検討もしたことがないので、返事のしようがないといえますか、そういう答弁をさせていただいたところでございます。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 私は朝倉市の財政というのは、今、本当によくなってまいりまして、これから注視して見ていかないといけないというような状態だというふうに思っているんですが、そういった中でそういった情報を共有するということは、非常に大事なのかなというふうに思っております。

国鉄の民営化のときに、メザシの土光さんと言いまして、土光敏夫さんという方が臨時行政調査会で行政改革について、たしか国の財政は厳しいということで、危機感を国民で共有、私はできたというふうに思っているんですね。そういった朝倉版のメザシの土光さんみたいな方がいらっしゃってもいいんじゃないかなと。財政についての共通認識を持つような、そういった方がいらっしゃってもいいんじゃないかなというふうに思っておりますが、その点についてはいかがでしょうか。そういった人材を選んで、そういう人たちにある程度リーダーシップを持って引っ張っていってもらおうと、そういう考え方ですが、いかがでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 副市長。

○副市長（堀内善文君） 過去に朝倉市も財政的な危機にあったことがございます。昭和五十五、六年ぐらいだったと思っておりますけど、本当に財政再建団体になろうかどうかというときがございまして、同じような行政改革の担当の外部の委員とか、給与を下げたりとかいろんな、補助金を下げたりとか、いろんなことをしたと思っております。

そういう状況、当時はそれだけ逼迫しておりました。また、現在の朝倉市の財政はそこまではなっていないということで、国鉄の民営化みたいに、どうもしないと朝倉市の財政が回らないという状況ではなっておりませんので、まだそこまではどうかなというふうに思っているところでございます。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） そこまでは危機的な状況ではないということだと思います。ただ私は、これから大型事業が控えております。全体の予算額から比べると、非常に割合的には出費の量が多い金額ですので、変な話、何%ルールとかじゃないですけども、そういった意味では非常にこれから大きな支出をしていきますので、そういった中でチェックを働かせていくのは、意識的にやっていくようなタイミングではないかなというふうに思っております。

そういった中で、大きな支出も控えてる。全体像を捉えて正確な見通しをこれから持つていくことが必要ではないかなというふうに思っております。先ほど、そんなに深刻な状態ではないというようなお話はございましたけども、物事というのは何でも、やはり問題点があったりとか、課題というのが必ずあると思うんですね。

ですから、私は朝倉市の財政というのは悲観するものではないけれども、でも必ず課題というのはあると思うんですね。その課題を明確にして克服していくことが、私はある意味、財政マンとしての矜持といいますか、やるべきことだというふうに思っております。

そういった意味で、朝倉市の財政上の課題というのは何でしょうか。どういうふうに捉えていらっしゃるのでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 副市長。

○副市長（堀内善文君） 課題といいますのは、私は今10年の見通しを出しておりますが、どうしても先ほど申し上げましたように、交付税の減収に伴いまして、収支が今後黒字幅が減っていく。言葉でいえば赤字に近くなっていくということが予想されるということです。

ただこれにつきましては、合併特例債という有利な起債を使うことを決めておりますので、当然、今までにそれだけの蓄えもあるという形の前提でございます。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） これから収支が厳しくなっていくということが予想されるということでした。そういった中で財政の、先ほど、冒頭に言いました財政の見通しあたりを基礎にお話を進めさせていただいているんですが、そういった中で厳しくなるかもしれないというような事実があるわけですね。

そういった中で事実だけを確かに私もいただいたんですけども、その事実だけではなくて、それに伴って、先ほどから言いますように、プロとしてのプライドをかけて、市民が納得できるような選択肢、先ほど履行責任という言葉ありましたけど、じゃあどうする

というようなのを、私は提示しなければならないのではないかと。それは副市長、市長もですけれども、私はそういうふうに思います。

そういった意味で、じゃあどうするということにつきましては、いかがお考えでしょう。厳しくなるかもしれないということに関してですね。

○議長（浅尾静二君） 副市長。

○副市長（堀内善文君） そういう厳しくなるのは、私、執行部内部、それから議会の皆さんにもお示ししてるとおりでございまして、そして、いろんな大型事業、今からたくさん出てきます。そのためにも毎年、10年の見通しで収支、見ていただいているところがございますので、その中でのいろんな市長の判断、それから議会の判断、同意、そういうことを含めて、議員が言われますような、民間の委員の方と同じようなことを議員がされてることだと理解しております。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） せっかく今、財政的にうまくいっています。でも、一方で大型事業は控えてると。そして、先ほど、私流に言いますと、人口減少というような病がありますので、そういった中で将来がちょっと不安な部分もあると。それだったら一つの選択肢として、じっとしとけばいいと。何もしないのが一番ベストだという考え方もあると思うんです。これは今まで日本が苦しんできた、ある意味、デフレマインドだとは思いますが、何もしないことが一番いいことだと。

しかし、市長はそうではなくて、動かされたわけですよ。それについて市長、一方で議員としては、私は心配性ですのでブレーキもかけます。議会としてこれは心配ですと率直に申し上げます。そういった中で、何もしないというのも、一つの策ではないですかと、現状維持策ですよ。そういった考え方も十分私はできると思うんですね。

そういった中で、市長とこの議場でお話させていただきたいのは、あえて市長は、ずっと朝倉市というのは均衡財政を保ってきたのが、積極財政に転換された。均衡財政じゃないですが、大型事業やってこられなかったの、そういう意味です。そこを積極財政に変えてきた。

それについては、私は、毎回議会では同じことを言っておりますけれども、心配ですと申し上げております。市長、どうして積極財政なのかということと心配ですというお答え、その2つをお願いいたします。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） 財政について、大変御心配をいただいております。実は私自身も心配をしております。今、積極財政とか均衡財政という話がございました。しかし、そういうことではなかろうと思うんですよ。

合併してもう10年経過いたしました。朝倉農業高校については、御存じのような状況の中で、朝倉市があれを生かすということ。もう一つ、市庁舎については、いずれこれやら

なきやならん問題。たまたま合併特例債という有利な起債を起こせると。だったら今のうちやったほうがいいんじゃないかということでやらせていただくと、それが重なったということだろうと思うんです。

そこで、実は私自身も、本来、もっとやりたいことあるんです。夢もあることもあるんですけども、なかなか財政との兼ね合いの中でやれないことも、正直言ってございます。

例えばきょうも議題になりました、甘木鉄道の博多直行の問題にしても、これは調査をして、恐らくいろんなハードルが出てくると思うんですよ。これは財政的なもの、技術的なもの、いろんなものが出てまいります。しかし、もしそれが可能だという結果が出たとき、どの程度の財政支出をすればいいのかといった問題で、また迷うような形で悩むところが出てくるだろう。そんな面でいろんな問題がございまして。

しかし、今、やろうとしてることについては、これは明らかに将来に朝倉市のためにきつとなるんだという思いの中で取り組んでおります。それから、こうやっていくから大丈夫なんだということを、私の口から発してほしいという思いもあられると思います。

ただ10年計画、平成35年度まで計画を提示させていただいています。これについては現在、想像できる、可能性のあることについては、全部織り込んだ中での計画になってます。

しかし、これから先、私もわかりませんが、不確定要素というのは必ず、例えば下手すると、今度、イギリスがEUから離脱して世界的な不況になる可能性だってあるわけです。そういったことまでは織り込んでませんが、そういったいろんな不確定要素がある中で、一つの指針として10年の財政の見通しというものを御提示申し上げました。

これをつくるときに、例えば庁舎にしても、平米50万円という非常に高い金額として計算をさせて出させていただいております。これについていいますと、これはもちろんやることはやりますけども、なるべく安い値段でやっていく。それに幾らか出るということも、私は内心の中じゃ、そのようにしたいなという思いもございまして。

そういったことをやりながら、一方では、きょうも話、ございましたけども、いつまでこれが続くかわかりませんが、いわゆるふるさと納税という問題についても、積極的に取り組んでいく。いつまで続くかわかりませんが、これも、取り組んでいかなきゃならんというふうに思ってます。

そういうことをやりながら、少しでも財政というものを、きちっとした形の中で後世に引き渡すというのが、私どもの務めだというふうに思ってますので、そういうつもりで今後取り組みをさせていただきたいというふうに思ってます。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） ありがとうございます。やるべきタイミングであるとか、もちろん無駄遣いをしないとか、そういった御答弁をいただいたと思っております。

私が最近、市民の皆様からよく聞く話は、大型事業を2つもやって、本当に大丈夫なのかと。それは単純に、私はそれよくわかるんですね、市民の皆様のお気持ちで、朝倉市はこ

れから人口が減るじゃないかと、大丈夫なのかというのですね。あなたは議員として、その声を届けてくださいよということをよく言われるんです。これは私は議員として、市長に声を議場で届けないといけないというふうに思っております。

市長、済みません、同じ答弁になるかもしれませんが、2つ、大きな事業をやって、これから朝倉市は人口が減っていくと。それで大丈夫なのかと。言葉、ひどかったら、過ぎたらお許してください。無駄遣いじゃないかというような市民の声がございます。これについては市長、どのようにお考えでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） 市民にもいろんな考えの方がたくさんいらっしゃると思う。それぞれいろんな考えをお持ちだと思います。ただ私の中では、例えば朝倉農業高校の跡地の活用について、無駄遣いとは思いません。人口が減るということは間違いない事実でありますけれども、だからといって、そういったものが不必要なのかと。庁舎にしても、人口が減るから、ここでいいのかという話なんです。庁舎については、いずれ、この庁舎も古くなって、いずれはどうせどうかしなきゃならんというなら、有利なときにしたほうがいいだろうと。

要するに朝倉農業高校跡地、十文字公園という名前にしてはありますが、その活用にしましても、御存じのような経過の中で、朝倉市の用地になったとするならば、市民が昔から望んでいたもの、これは人口が減るから不必要なものなのかと。そうは考えてませんので、たまたまこれがうまく同じ時期になったということはありますけれども、その中でもさっき言いましたように、そのことについても10年の見通しの中にちゃんと入れさせていただいております。

それも先ほど申し上げましたように、実際の価格、要するに建設単価よりも高い形の中で織り込んで入れております。そういったものをやりながら、少しでも安い金額でいいものをつくって、そして、それを後世の人たちがうまく活用していただくということになれば、決して無駄遣いだというふうな気持ちではございませんので、御理解いただきたいなと思います。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） そして、次に私は副市長にもお尋ねしたいと思っております。財政の事務方のトップ、もしくは前総務部長として財政のことは詳しいと思います。そういった中で財政のプロとして、私は財政の規律というのは守っていかないとけないというふうに思っております。そういった中で市長は市長として、トップとしてお考えを述べました。

しかし、私は副市長にも事務方のトップとしてお聞きしたいと思っております。本当に大丈夫なんでしょうか。危機感を持ってちゃんと事業に当たっていただけますでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（浅尾静二君） 副市長。

○副市長（堀内善文君） 10年の推計の表からいいますと、平成36年度で単年度で2億8,000万円程度財源が足りない。それから、累積で5億円弱足りませんというような見通しを出しております。これはあくまで通常の起債等の償還がございしますが、基金からの繰り入れは一切しないという場合のことでございまして、当然こういう、将来的に歳出がふえるということは、今、合併特例債とか、そういうものを190億円まで使えますので、そこまで使った上での試算でございまして、当然後年度には、そういう償還が出てくるということを想定した試算でございまして。

ですから、その対応としましては、減債基金が平成36年度でも13億円程度は残してるという形で、累積赤字分は全てここで穴埋めしても、まだ大丈夫だという形は考えてるところでございまして。

また、この財政の見通しというのは、財政計画ではないということです。このとおりにやりますということではございません。何もしなければ、これだけのことになりますよということの、今後の財政運営をするための一つの私どもの目安になるものでございまして、こうならないようにやっていきます。

それと、これをつくるときには、どうしても予算額ベースでいっておりますので、入札をしたら減額するとか、そういうことまで考慮されておられませんので、若干の幅はあろうと思っております。そういうところでございまして。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） ありがとうございます。基金もあるということだし、何もしないというわけではないということだというふうに思っております。

じゃあどうするんだ、どうするんだと、心配だ、心配だと言っても、それは何もありませんので、私は議員として、ではこういうことが必要ではないでしょうかということ、ここに書かせていただいているんですけども、そういった中で私は、先ほど言いました人口減少して、社会保障費がかかっていきますので、高齢者医療や介護などの需要増加を抑制する政策、抑制する政策的努力、これをやっていくことが私は必要だというふうに思っております。

しかし、いま一つ、政策的な努力をやってるといのは、私が見方が悪いのかもしれませんが、具体的には見えてこないような気がします。先ほど言いましたように、全体像を捉えて正確な見通し、そういった中で私は政策的な努力が必要だと、需要増加を抑制する、そういったものが必要であるというふうに、議員として私は考えます。これについては、政策的な努力はなさっておりますでしょうか、お尋ねします。

○議長（浅尾静二君） 副市長。

○副市長（堀内善文君） いろんな医療とか介護とか、こういう形で非常にお金がかかってきております。特に医療費なんかは、医療の性質が高度化されておまして、昔みたい

な医療費よりも、いろんな検査でお金がかかってあるとか、なかなか削減できるようなものではなくて、逆に高くなってるのが非常に多いと思います。

政策的に今やってますと、なかなか言いづらいものはあるんですけど、ことしから始めたものとしましては、薬の飲み残しの分を活用するとか、小さいことではございます。それとか介護におきましてはポイント制度とか、いろんな形をしまして、自分たちの介護とか利用できるんじゃないかと、健康寿命を延ばすための方策という形で、いろんな形をしてるところでございます。詳しいことは保健福祉部長のほうが答えると思いますが。

○議長（浅尾静二君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（宮地ミドリ君） 医療、介護に関して、保健福祉部が担当しておりますので、医療費を抑えるための施策について、若干説明させていただきます。

後期高齢者医療、あるいは国民健康保険に関して、どういう抑制策を考えてるのかということですが、まず適正に受診していただくということの啓発、あるいはジェネリック医薬品、後発医薬品の普及を促進しております。それとあと医療費適正化、それと健康づくり、みずから健康を保っていただきたい。それと先ほど副市長が申しました薬剤費を抑えるための節薬バッグ運動についても、後期高齢者医療、それと国民健康保険に関しても一緒に行っております。

それと介護についてでございますが、介護について給付費を抑制する方策として、まず地域みんなで支え合う体制、地域包括ケアシステムというのが以前からうたわれておりましたが、今期の制度改正で国のほうは、これを強く勧めるようにということですので、それを実現していきたいと考えております。それと介護給付の適正化の推進、それと高齢者お一人お一人の意識改革に取り組んでいきたいと考えております。以上です。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 今、具体的な個別のメニューが出てまいりました。時間の関係上、一つ一つのメニューについては、お話してましたら足りませんので、ただ私は、副市長は財政畑を歩いてこられて財政のプロ、そして副市長になられた。そういったことでは物すごく、こんなに朝倉市にとっていいことはないというふうに思ってます。そういった意味で、私は、だったらそのお持ちになってる能力を最大限に朝倉市のために使っていただきたい。

先ほど言いますように、介護や医療の分の需要があるということ、これは仕方がないことで、ある意味、必要なものですが、ただ増加をすることを抑制してほしい。そして、それを努力してほしい。政策的に努力してほしいという、そういった仕組みを考えるのは、副市長のお仕事、それから総務部長のお仕事ではないかなというふうに思っております。そういった政策的な努力、それは私も議員として、これから機会があれば、一生懸命考えて提案をさせていただきますので、それは考えていただきたいというふうに思っております。

私の考えの続きになるんですけど、まずとりあえずは、そういった需要増加、医療費や介護費の需要増加分を抑制しないとイケないと。これがまず第一に、私は朝倉市がやらないとイケないことだというふうに思っております。

その一方で、今度は長い目で見たら、私は若い人たちの定住化が鍵になるのではないかなと思っております。少子化対策とって、婚活とか、子どもを産んでいただくというのも、これも大事な話ですけど、効果が出るまでは20年かかってしまいますので、とりあえず税収をふやす。それから、人口減少をストップをかけないとイケませんので、そういった意味では定住化をやっつけていかないとイケないと。これが将来的には必要な政策になっていく。だから、今から仕込みをしていかないとイケないというふうに思ってます。この、若者定住が鍵というふうに考えてますが、そういった部分の政策というのは、何かしていらっしゃるでしょうか。再度お尋ねいたします。

○議長（浅尾静二君） 副市長。

○副市長（堀内善文君） なかなか難しいものでございまして、特効薬というのはなかなかないように今思っております。いろんな親子三世代住むようなリフォームの補助とか、幾つかのとか、あとはインフルエンザの予防接種の補助とか医療費の無料化とか、そういう形ではいろいろやっておりますが、それだけでは朝倉市に住んでいただく、なかなか厳しいものというふうに理解しておりますが、いろんなことをしながらふやしていきたいというふうに思っております。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） なかなか厳しいものがあるということでしたけども、私は与えられた資金と申しますか、税金を有効に使って、あす、参議院選が公示されますけれども、新聞なんか読んでると、今度18歳以上の方が投票されますけども、シルバー民主主義だとかいって、若者には全然お金が行かなくて、高齢者のほうに重点的に予算が配分されてるとかいうのが出てますので、私は朝倉市もある意味、若者のほうに優先順位をつけて、資金を配分してもいいんじゃないかなというふうに考えてるんですけども、なかなか市町村のレベルでは難しいと言ってしまうとそれまでですけども、でもそれをやっつけていかないと朝倉市は選ばれないんですよ。来ていただけない。人口がふえない。ですから、私は資金を優先順位をつけて配分すべきというふうに考えますが、いかがでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 副市長。

○副市長（堀内善文君） 一つの方法だと思います。よその市町村でも1人子どもが生まれたら幾ら補助するとか、転入された場合には補助する。また、保育料の無料化をされてるところもございまして。いろんな政策ございまして、それが朝倉市が持続して財政の中でできるかというのが、非常に難しいところございまして、どうしても継続的な財源がすぐそこに結びつくわけございまして、なかなか踏み切れないという状況ございまして。アイデアとしてはいろいろあるんですけど、なかなか思い断ちきらんという状況ございま

す。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） そろそろ時間が参りましたので、この質問は終わりたいというふうに思ってるんですが、最後に私、レポート、名前を忘れてましたけども、読んでおりましたらば、こんな言葉がございました。これを御紹介させていただいて、真の危機というのは内部から起こると。それは危機や試練を正確に認識する能力をまず失うと。そして、長期の未来を考えることができなくなる。そして最後に、自己決定能力を失うと。もう一度申し上げます。危機や試練を正確に認識する能力を失う。それから、長期の未来を考えることができなくなる。そして最後に、自己決定能力を失うというレポートがございました。私はまさにそのとおりだなというふうに思っておりまして、私も議員として、それは肝に銘じて、これから議会議員として職責を果たしていきたいというふうに思っております。

それと、今はもう高度成長期というのは終わりました低成長、人口減少の時代に入ったと思っておりますので、甘い認識というのは、これは禁物だというふうに思っております。将来はよくなるという明るい展望というのは持ちたいとか、今のままがずっと続くとか、人間というのは考えがちですけども、甘い認識は持たずに、私も議員として活動を続けていきたいというふうに思っております。

では1番目の質問、財政については終わらせていただきます。

では次に、残りの時間で筑後川水系ダム群連携事業に関する市の考え方についてを質問させていただきます。

まず、これは国土交通省の話でございまして、事業主が市ではございませんので、私が一般質問で取り上げるというところは、適当ではないというような考え方もできると思いますが、これにつきましてタイミング的に今、大事なところに来てるというふうに思っております。5月の20日に公聴会も開かれましたので、あえて私は質問に上げさせていただきます。

そういった中で、今後のダム群連携事業につきまして、スケジュールがどうなっていくのか、それだけ押さえておきたいんですが、御質問させていただきます。

○議長（浅尾静二君） 都市建設部長。

○都市建設部長（武内伸一君） 議員おっしゃいますように、私たちも情報、なかなか持ち得ていません。議員の持ち得てる情報と行政が持ち得てる情報、そう大差ないと私は感じておるところでございます。

それで、今後のスケジュールということでお尋ねの分ですが、筑後川水系ダム群連携事業の検証作業については、今現在進行形というのは、議員も御承知かと思えます。5月20日に対応方針、これはダム群連携事業が有利であるといった素案のことですが、これに対し、住民によります公聴会、20日の日、5月の20日の日だったと思えます。そして、並行

する形でパブリックコメントが実施された経過がございます。

それらを反映したものといたしまして対応方針、これはダム群連携事業が有利であるという原案の案でございますけど、これが作成をされまして、福岡県知事から朝倉市への意見聴取がなされました。これは今回の議会開会前後の動きということでございます。それでのうの20日の日に、市のほうから県のほうに提出をしたところでございます。

それが今現在の直近の動きでございまして、今後の動きといたしましては、九州地方整備局としての対応方針、原案が作成をされます。以降、九州地方整備局事業評価監視委員会の意見を聞きまして、対応方針案が決定をされるといった状況になります。それで、これが国土交通省に提出されるといった段取りになると聞いておるところでございます。

本年の夏くらいには、国土交通省での継続か否かの判断がなされるものだと考えて、想定しているところです。これは来年度の概算要望時期がそうなのかなということで、こういう判断をしているところです。以上でございます。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） ことしの夏ぐらいに継続か中止かということで、調査のですね、その決定がなされる見込みであるということでした。そしたら今のタイミングというのは、非常に私は大事なときなのかなというふうに思っております。

そういった中で、この前の5月20日の公聴会の中で、朝倉市は何もそこまで他の利水者のために尽くさなくてもいいんじゃないかと。済みません。いい例えかどうかわかりませんが、最後のボタンまで差し出すような、そこまでやらなくてもいいんじゃないか。十分利水者のために貢献してますと。それなのに、なぜまた筑後川の本川の水を木和田のほうにまで上げて、そこまでして尽くさないといけないんですかというような議論がございました。そして、まだ朝倉市はほかの利水者のために、開発されないといけないんですかと、こういった意見も出たような気がします。心情的には、私は何となくわかるんですね。

このダム群連携事業については、これが本命の案だなというふうに国土交通省が考えてるといのは、資料見ましたらば有力な案であるということが書いてありましたので、そうなるこの事業が始まれば、朝倉市が新しい舞台になりまして、当事者になっていくというふうに思っております。

そういった中でいろんな心配事がございます。生態系のことであつたりとか、構造物によって水の流れが変わるんじゃないとか、杷木の方もたくさん心配をおっしゃってあつたんですけども、そこまでしてやる必要があるのかというような意見が、私は公聴会の中では多かつたような気がいたします。これについて市長、どのようにお考えか、御意見を聞かせていただければというふうに思っております。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） 公聴会でさまざまな意見が出たということについて、私も存じ上

げておりますし、具体的にどういう意見だったという話も聞いております。それ以前に地元の協議の場で、朝倉市としての立場については、はっきり申し上げさせていただいております。

問題は、これから国土交通省は本庁でどう判断するのか。継続なのか中止なのか。恐らく可能性としては、ほぼ90%以上継続になるんだろうというふうに、いわゆるダム群連携事業としてでるんだろうというふうな感触ですけれども、ただ残念ながら、現在の時点では、まだこの計画について、私どもは一切、内容について存じておりません。まだ国土交通省のほうから来ておりません。

あわせて、私は先ほど地元の協議の場の中で申し上げておりましたように、先ほど言われたのと同じこと、通じますけれども、今日まで朝倉市は江川、寺内という形の中で、水については随分貢献をしてきたと。しかし、それについては地元にも何らかの利益もあつたし、プラスもありました。

しかし、今度のダム群連携事業については、朝倉として何のメリットもない。このことについて、いわゆる需要者側、下流、下流はメリットがあるかもしれん。しかし、肝心の事業されるうちについては何もなし。上流、下流、均衡がないと、均等でないと、メリットについてはいかなのじゃないかという話をしております。

ですから、具体的に、今後としては、意見書は県のほうに、知事のほうに渡しておりますので、それにあわせて、今後、具体的に決まって、まず調査があつて、その後、どういう形になるか決まる。その時点で地元として言うべきこと、やってもらわなきゃならんことについては、きちつとやらせてもらおうというスタンスでおります。以上です。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） ダム群連携事業が本命の事業であると。私も感触としては、これは採択になって将来的にやっていくべき事業なのかなというふうに思っております。

そういった中で、今のところは情報が来てないと。その事業主ではないので、情報が来ないことにはどうしようもないんですけども、しかし、本命でありながら情報が少ないと。情報が少ないから不安になると。これも住民感情として、私は理解できるんですね。

ここのところの情報をとってくるといいますか、先ほど言った説明責任であつたりとか、もちろん当事者でありませぬので、それは国土交通省がやることだよと言ってしまえば、確かにそうですけれども、ここの部分はもう少し明らかにすることはできないでしょうか。この点、いかがでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） 先ほど話がございましたように、実施調査というのはまだやらないんですね。だから、今、私が一番心配してるのは、いろんな臆測、特に杷木地域にあるようでありますけれども、いろんな臆測の中で、いろんな動きがあつておるように聞いております。このことは非常に心配します。きちつとした情報が出てきてやっぱり動くべ

きだと。

こちらから前もって取れんかという話でしょうけども、なかなか今の時点では、国土交通省もまだ調査をしてないということで表に出さんでしょう。要するに正式な情報ですよ。あげんげな、こげんなといろいろ言う人はおります。それに惑わされないようにしていくということが大事なことかなというふうに思ってます。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） タイミングを見て正式な、正確な情報に基づいて議論していったって、やっていくということだというふうに理解いたしました。済みません。最後の質問になると思うんですが、冒頭、私も申し上げましたが、朝倉市というのは随分貢献をしてきて、まだ開発が必要なのかというような気持ちは、個人的には持っております。

そういった中で、私はこの朝倉市にとって、この事業がメリットがないといけないというふうに思っております。これは私の個人的な考え方なんですけれども、朝倉市にとってのメリットは何かといえば、私は朝倉市の水環境がよくなって、水量がふえるということが必要だというふうに思っております。

以前、朝倉市にもともとあった水量を回復するようにしていただきたいというふうに、私は国土交通省の方にこの議会の場を通じて申し上げさせていただきたいと思っておりますが、市長、この点についてはいかがでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） そこで、6月20日に県知事に朝倉市長として回答した意見書の内容がありますので、この場をかりて皆さん方にお知らせをさせていただいて、それを回答とさせていただきたいと思えます。

まず、①でダム群連携事業の実施計画調査が継続されることに異存はありませんと。調査ですね。②で、取水地点や導水ルート案、水運用などの事業計画が明らかにされていないため、事業に伴う多くの心配事があります。また、朝倉市域の河川環境や水環境ほか、種々の改善すべき課題があります。これら心配事の解消と課題解決に寄与するダム群連携事業であるのか否かを今後、事業者と議論していきたいと考えております。これが朝倉市として県知事に出した意見であります。以上です。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 朝倉市にとって地域のためになる事業になることを願ひまして、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員の質問は終わりました。

10分間休憩いたします。

午後3時19分休憩